

ハヤブサとは

ハヤブサとはどんな鳥か

ハヤブサ (ハヤブサ目ハヤブサ科)
学名 *Falco peregrinus japonensis* 漢字名 隼

■ハヤブサとはどんな鳥か

ハヤブサは、海岸、河口、河川、農耕地などに生息し、海岸の断崖の岩棚などで繁殖する。泉大津のハヤブサのように、ビルなどの建物を繁殖に利用する例が増えてきている。雄は全長約42cm、雌は約49cmと雄よりひと回り大きい。翼を広げると1mに達する。

法などによる位置づけ

- ・絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律：国内希少野生動植物種
- ・環境省レッドリスト VU：絶滅危惧Ⅱ類
- ・大阪府における保護上重要な野生生物 一次大阪府レッドデータブック 絶滅危惧Ⅱ類：絶滅の危険が増大している種

●ハヤブサのからだ

【翼】 翼を広げると約1mになる。飛んでいるときには翼は細長く先が尖って見える。上空から獲物をめがけ急降下するときの速度は時速300kmを超えるといわれている。

【目】 目の色は黒褐色で、黄色いアイリングが目立つ。
【くちばし】 他のタカが足だけで獲物を殺し、くちばしは獲物引き裂いて食べるときに使うが、ハヤブサは、くちばしの両側に「かぎ」をもっており、このかぎと足を使って獲物を殺す。

【足】 体より大きな足をもち、空中で獲物にパンチを食らわせ仕留めることがある。

【声】 ふだんはほとんど鳴かないが、繁殖期には侵入者に対し「キッキキキ」とか「ケケケケ」と聞こえる声で鳴く。ヒナは餌をねだるときに「ピー、ピー」と鳴く。

【成鳥と幼鳥の違い】 成鳥は、頭の黒味が強く、背は青灰色で、胸から腹は白く、胸の上の方には細かい縦線が、腹と脇、腰には横線がある。目から頬にかけてひ状の黒線がある。幼鳥は頭から背が茶褐色で、胸から腹にかけては、はっきりした褐色の縦線が見られる。

●ハヤブサのくらし

【食べ物と狩り】 ハトやムクドリ大の小鳥が主な獲物。シギやチドリなどの渡り鳥や冬には小型のカモなどを捕らえることもある。ハヤブサは、お気に入りの見張り場に止まり、空に鳥が現れるのを待つ。飛んでいる鳥を上空から急降下して猛スピードで追いかけて、大きな足でけ落としたり、そのまま足でつかみとったりする。捕らえた獲物は、大きな獲物の場合はそのまま地上で食べたりするが、運びやすい小さな獲物の場合は安全な止まり場まで運んでから食べる。



翼を広げると約1メートル



ハヤブサの目



ハヤブサのくちばし



ハヤブサの足



成虫と幼鳥の違い

ハヤブサの営巣環境について (営巣場所の状況と周辺環境)

ハヤブサは本来、海岸部の断崖にある岩棚などで、繁殖することが多いが、近年都市部のビルなどの人工建造物を繁殖に利用する事例が増えてきている。しかし、人工建造物の繁殖が成功し巣立ちにまでいたるケースは少なく、2004年の泉大津での繁殖記録が全国的にも数例目の成功事例と考えられる。どうしてハヤブサがこの場所を営巣地として選択したかを考えるために、泉大津のホテルの営巣場所と周辺の環境について整理してみた。

■営巣している建物と巣の位置

建物名称	ホテルサンルート関空 高速道路泉大津サービスエリアに隣接、海岸側までの距離約200m
建築概要	地上20階建て 高さ77.35m 1996年竣工
巣の場所	客室18階のベランダ 建築概要 地上からの高さ63.65m
巣の状況	ベランダの奥まった場所にドバトのフンが堆積してできた四方約1.2mのマウンド(ドバトがねぐらや営巣にベランダを複数年利用していたものと思われる)を巣として利用
巣のあるベランダの方位等	南西向き 午後から日差しが巣のあるベランダの奥まで届く 上階の建物部分が庇となって、通常の降雨であれば巣までは雨に濡れることはない

■営巣地の周辺環境

営巣地の立地環境の方位等	きららタウン泉大津：大阪都心から南西約20km、関西国際空港から北東約15km。泉大津旧港を埋立開発し、1996年にまちびらきした。総面積26haで営巣地のホテルの他にビジネス施設や緑地、マリナ、住宅ゾーンなどがある。
近接する建物の方位等	「きららセンタービル」ホテルの西約100mに建つ地上12階建て、高さ52.2mのビル ・ホテル同様、ハヤブサの止まりがよく見られる。 ・巣立ち後のヒナ鳥に安心できる休み場を提供 ・3階部分が高速道路臨海線の泉大津サービスエリアとなっており、11階の展望室からは、大阪湾の景色やホテルのシンボルルックに止まるハヤブサを見ることが出来る
周辺環境・野鳥渡来地等の方位等	①大津川 河口部の川幅約150m 河口部の干潟には、水鳥が多く集まる ②泉大津フェニックス 汐見埠頭地先の産業廃棄物埋立処分場 コアジサシやツバメチドリ等の繁殖地、冬には、スズガモを中心に1000羽程度のカモが越冬 ③泉北6区先導緑地(助松野鳥園予定地) 小規模ながら干潟が造成され、シギ・チドリなどの水鳥が渡来

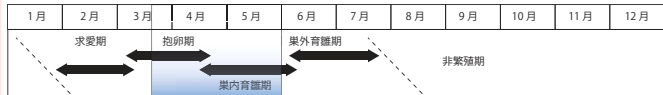


ハヤブサの巣と見守りカメラ



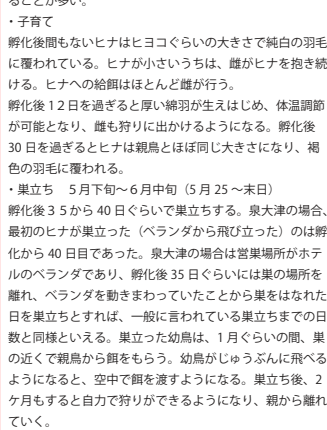
- なぜ当地をハヤブサが営巣地に選んだのだろうか？
- 高層ビルを海岸部の断崖と見たて、またそこに巣をつくるのに適当なベランダがあったこと
 - 周辺に餌場(野鳥の生息地)があったこと

●ハヤブサの生活サイクル



【繁殖行動】 () に2006年繁殖データを参考記載
ハヤブサは一度つがいになると、どちらかが死ぬまでつがい関係が続き、繁殖期以外にもいっしょにすることが多い。
・求愛 1月～ ディスプレイ飛行
雄と雌が追つたり追われたりしながら飛んだりする。巣の近くで求愛給餌(餌渡し)や交尾も見られる。巣は岩棚などをそのまま利用し、自分ではつくらない。
・産卵 3月中旬～3月下旬(3月9日～15日)
ニワトリの卵より一回り小さいぐらいの赤褐色の卵を2～3日おきに、3～4個産む。
・抱卵 3～4月(3月13日～4月16日)
雌、雄とも抱卵を行う。約30日で孵化。雄は、抱卵中の雌に餌を運ぶが、巣から離れた場所や空中で餌渡しが行われることが多い。
・子育て
孵化後間もなくヒナはヒヨコぐらいの大きさで純白の羽毛に覆われている。ヒナが小さいうちは、雌がヒナを抱き続ける。ヒナへの給餌はほとんど雌が行う。
孵化後12日を通ると厚い綿羽が生えはじめ、体温調節が可能となり、雌も狩りに出かけるようになる。孵化後30日を通るとヒナは親鳥とほぼ同じ大きさになり、褐色の羽毛に覆われる。

■ハヤブサについての8つの質問
Q1 世界のどこに分布しているのか？
南極を除く世界のほぼ全域に分布。日本では、九州以北で繁殖。冬鳥として渡ってくるものもいる。
Q2 日本ではどれぐらい生息しているのか？
詳しい調査はなされていないが、およそ300羽といわれている。岩手県では約60の営巣地があり、約130羽生息しているとされている(岩手県2001)。
Q3 ハヤブサの寿命は？
約10年といわれている。
Q4 雄と雌の大きさの違いはどうして？
雌は雄より3割ほど体が大きい。これは、体の小さな雄がよりスズメやムクドリなどの小さな獲物を、体の大きな雌がヒナなどの中型の鳥を獲物とすることで、テリトリー内の餌資源を有効活用できる利点がある。また体の大きな雌が子育て期間中も巣の近くにおいて、カラスなど敵の接近からヒナを守ることに有効。
Q5 ハヤブサの狩りの成功率は？
ハヤブサはほとんどが空中で飛んでいる鳥を捕らえる。広島県で調べられた海上での捕獲成功率は54%。陸上では18%という報告がある(山田2001)。いかに狩りの名手でも100発100中とはいかない。
Q6 ハヤブサの飛ぶスピードは時速何キロ？
ハヤブサは翼をたたみミサイルのようなスピードで狙った獲物に急降下する。瞬間的には時速300～400キロになることもある。
Q7 農業の影響で数が減ったというのは本当？
DDTなどの有機塩素系の農業の影響で、卵の殻が薄くなった。卵の中で成長できないヒナが増えてきたり、食物連鎖の頂点に立つハヤブサは、獲物として口にした鳥などの体内に含まれる毒物をどんどん貯めてくるので最も大きな影響を受けた鳥のひとつである。
Q8 アメリカなどでハヤブサが増えた理由は？
農業の使用制限によって毒物による影響が軽減。人工授精したハヤブサの放鳥やビルなどへの巣台の設置や子育ての監視など多くの人たちの献身的な保護活動が、繁殖の危機から脱出。都市のくらしにも適応するようになり絶滅など考えつかないほど増加した。



泉大津ハヤブサ・サポート倶楽部について

泉大津ハヤブサ・サポート倶楽部の会員になりませんか 寄付のお願い

- 泉大津ハヤブサ・サポート倶楽部の目的
本会はホテルきららリゾート関空内で繁殖するハヤブサの保護と保護についての啓蒙を行うことにより、都市に暮らすハヤブサとの共存を図ることを目的とする。
- ②本会は前案の目的を達成するために次の事業を行う。
①ハヤブサ保護の関する知識と理解を深めるための観察会やセミナー等の開催
②ハヤブサの繁殖行動の監視と保護対策の実施
③年数回の会報の発行
④その他本会の目的達成のために必要な事業
- ③具体的活動内容
①ハヤブサの繁殖行動を観察し見守るためにNETWORKカメラを設置し、ホームページを通じて観察記録や映像などを紹介する。
②繁殖行動期間にハヤブサ観察会を開催し、参加者に都市に暮らすハヤブサとの共存を体験していただく。
③ハヤブサのヒナたちの巣立ちを見守り、ヒナたちが危険な状況にある場合、可能ならば救出活動を行う。
④日本野鳥の会大阪支部との連携により、絶滅危惧種であるハヤブサの生態などを紹介する。
- ④会員資格と運営方法
①目的に賛同できる人は、事務局に入会届を提出すれば、誰でも会員になれる。また、会員は事務局に口頭あるいは退会届を提出して任意に退会することができる。
②会費は特に集めず、必要な経費は寄付金(カンパ)でまかなう。
③本会の会計年度は1月1日より12月31日までとする。
④役員は特に定めないが、運営委員が構成する運営委員会は会の運営について協議し、参加者の総意を大切に活動を進める。

- 寄付のお願い
- ①見守りカメラ運用のための費用(電話回線使用料)
②ホームページ運用費用(プロバイダ費用)
③寄付を頂いた方々への記念品の製作
④観察会開催に伴う運営費用
⑤ハヤブサ観察会の開催案内の送付
⑥その他
- ②ご寄附いただいた方々には次のような記念品を用意しております。(1000円以上の寄付を頂いた方対象)
- ①ハヤブサ写真集ポストカードセット(6枚セット)
②きらら川くくんバッジ
③その他

「ハヤブサ保護(会)」 「ハヤブサ保護(会)」

皆様のご寄付、ご支援をお願い申し上げます。

銀行口座
 種別 利南銀行 泉大津支店(210)
 口座種別 普通預金
 口座番号 0293717
 口座名 泉大津ハヤブサ・サポート倶楽部

郵便振替
 口座記号 00990-8
 口座番号 192713
 加入者名 泉大津ハヤブサ・サポート倶楽部

「ダーウィンが来た! 生き物新伝説」に登場。
2011年NHKの番組制作担当者から、番組で取り扱いたいということで取材の協力依頼がありました。
私たちは、巣のあるホテルの責任部署と打ち合わせを行い全面的に取材に協力しました。
取材班は1月から7月までポイントごとに1週間単位で取材に来られました。その年は、巣立ちの頃に雨が多く撮影には苦労されたようですが、きららんとそらちゃんの子育ての様子が完明にとらえられ、全国のハヤブサファンに好評を博した放送となりました。

